

つなげよう つながろう
ふたさばのわ



表紙はJR双葉駅周辺 (8月11日撮影)

▶ 双葉町特集展 東日本大震災・原子力災害 双葉町の記憶と記録 (P2~3)

- ▶ 発信してみよう! タブレット交流会 (P4)
- ▶ 今年はオンラインで FUTABA 1 DAY SUMMER SCHOOL・双葉町の文化財図鑑 (P5)
- ▶ スマイルフォト・コーラスふたば 50周年記念コンサートのお知らせ (P6)
- ▶ 中野地区復興産業拠点 立地企業の紹介 (P7)
- ▶ 放射線モニタリング情報・ふたさばミニコラム・今月のオフショット (P8)

■ 発行: 双葉町秘書広報課 (☎0246-84-5202) ■ 企画・編集: 双葉町復興支援員(ふたさば)

インターネットでも つなげようつながろう ふたさばのわ

 町公式フェイスブックページ
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

 町公式ブログ
<https://futabanowa.wordpress.com>



双葉の 双葉町特集展

東日本大震災・原子力災害 双葉町の記憶と記録

7月14日から8月30日までの間、東日本大震災・原子力災害伝承館にて、企画展示「双葉町特集展 東日本大震災・原子力災害 双葉町の記憶と記録」が開催されました。

期間中は双葉町に関する展示品に加えて、「盆唄」や「フタバから遠く離れて」といった双葉町が題材となった映画の上映会や双葉町役場職員と東日本大震災・原子力災害伝承館の学芸員による展示解説が行われました。

先月号の展示紹介に引き続き、今月号では東日本大震災・原子力災害伝承館で語り部を務めている熊勝好さんのインタビューと双葉町特集展の来場者の感想を紹介します。



語り部インタビュー

熊勝好さん
《石熊》

語り部を始めたきっかけは？

2014年まで双葉町役場に勤めており、長い間双葉町民の方々にお世話になりましたので、退職しても何らかの形で恩返しをしたいと考えていました。そして東日本大震災・原子力災害伝承館が出来た時に、語り部になるための講習会が開催されることを知り、応募したのがきっかけですね。

口演ではどのようなお話をされていますか？

他の語り部の方々は、震災発生時や避難先での体験談をお話される方が多いですが、私は実際に起きた事故の流れを正確に伝えることを意識しています。やはり10年も経過すると、どんどん忘れてしまうんですね。災害の記憶を風化させないためにも、事実を伝えていくことが大切だと思っています。

語り部をする上で、難しいと感じることはありますか？

県内外様々な地域から様々な

年齢や境遇の人たちが聞きに来てくださるので、聞き手に合わせた内容の話ができない点が難しいですね。団体のお客さんでしたら、地域や年代に合わせて話が出るのですが……。

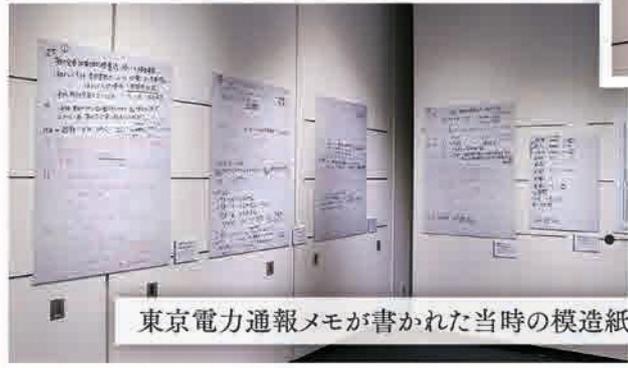
今後の意気込みを教えてください！

私たちが話すだけでは伝えられることに限界があるように感じています。百聞は一見にしかずというので、町内のバスツアーをしてみたいですね。今よりももっと深く伝えることができるのではないかと思います。



普段目にするものなので、震災からの時間の経過を肌で感じました。

こんなに間近で見ることがなかったので
圧倒されました。



東京電力通報メモが書かれた当時の模造紙



震災前に使われていたJR双葉駅の標識

来場者の声

当時の放射線量の高さに
驚きました。

焦りが筆跡に表れていて、
当時の緊迫した様子を
想像しました。



震災直後の
双葉中学校

私も今中学生なので、同年代の子が
泣いている様子に衝撃を受けました。



JR双葉駅に残された
新聞スタンド

震災前はのどかな町
だったんだろうと思いました。

震災前後で新聞の内容が
全く違うことに驚きました。
急に町が変わってしまった
印象を受けました。



Jリーグの更衣室

Jリーグ製の
更衣室を初めて
見ました。
女性は特に避難所
生活が大変だった
だろうと感じました。



応援メッセージの
入った大風呂敷

大きくて迫力が
ありました。
多くの方がメッセージを
書いて、双葉町民を
応援している気持ちが
伝わりました。

人との繋がりを感じ、
前向きな気持ちに
なりました。



発信してみよう！ タブレット 交流会

皆さんは、町から貸与されているタブレット端末を利用していますか？このタブレット端末導入から今年で7年が経ちました。タブレット端末では、双葉町公式ホームページの閲覧や双葉町公式YouTubeチャンネルでの動画の閲覧、掲示板で町民同士の情報共有などを行うことができます。

昨年度まではタブレットの操作ができるようになることを目標にタブレット教室を開催してきましたが、今年度からはタブレットを活用した町民同士の「コミュニケーション」の活発化を目指して、名称も「タブレット交流会」と変更しました。

「コロナ禍で町民の皆さん同士会ってお話しをする機会が減ってしまった方も多いと思います。そこで、タブレットを利用して近所さんの元気な姿を見たり、「ご自身の最近あった出来事などを発信したりしませんか？」タブレット端末の使い方が分からない方はもちろん、お友達への近況報告の場として、タブレット交流会を是非ご利用ください。

7月15日の郡山市八山田団地で行われたタブレット交流会にお邪魔しました。この日は、ふたばアプリ内の掲示板「自由広場」の見方やカメラの使い方、良い写真の撮り方などの講習がありました。参加者同士で最近撮った写真を見せ合ったり、投稿に返信したりと、和気あいあいとした雰囲気の中でタブレットの使い方を学びました。

参加した方の一人は「教えてくれる人は親切ですし、みんなに会えるのが楽しみになっています。普段はタブレットで町の情報を見ているのですが、今後はインターネットが使えるようになりたいです」と話しました。

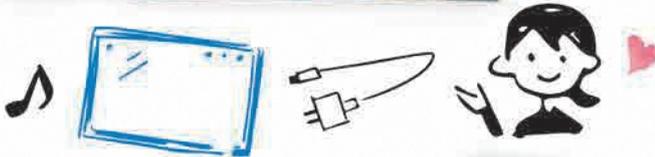
また、今年度は不定期で双葉町復興支援員（ふたさば）がタブレット交流会に伺い、皆さんに楽しんでもらえるような企画を行う予定です。皆さんも是非一度、ご参加ください。

タブレット交流会は、各避難先で開催されています。参加する場合は、ふたばアプリ運営サポートセンターへ電話にてご予約ください。今後のタブレット交流会の開催日などのお知らせは、タブレットのふたばアプリや双葉町公式ホームページからご確認ください。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大状況により、開催中止となる場合がありますのでご注意ください。



参加された皆さん



優しく教えてくださいます



写真撮影中!

今年はおんらいんで

FUTABA 1DAY SUMMER SCHOOL

フタバワンデーサマースクール

8月4日、双葉郡にゆかりのある中高生を対象とした中高生交流会「FUTABA 1DAY SUMMER SCHOOL(フタバワンデーサマースクール)」がオンラインで開催され、双葉中学校の生徒4人が参加しました。震災以降始まったこの取り組みは今年で6回目となり、全体のプロデュースを作詞家の秋元康さんが務めています。例年、著名人が講師となってワークショップを行っています。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインでの授業が行われ、作家の林真理子さんと環境大臣兼内閣府特命担当大臣(原子力防災)の小泉進次郎さんが講師を務めました。

授業では、林真理子さんが提示した『失敗しても良いじゃない』というテーマのもと、講師の二人がこれまでの人生で経験した失敗のエピソードと、それによって得た教訓や、失敗に負けない強いチャレンジ精神の持ち方を生徒達に伝えました。

夏休み中の教室に集まった双葉中学校の生徒たちは、講師の二人が話す内容を真剣な表情で、また誰もが一度は経験するような失敗談にくすりと笑ったりと、授業を楽しんでいました。後半に設けられた質疑応答の時間では他の学校の生徒たちよりも真っ先に手を上げて発言し、貴重な授業を積極的に取り組んでいる様子が見られました。



双葉町の文化財図鑑

Vol.9

榎内経塚群

所在地 大字上羽鳥字榎内

時代 平安時代終末期
(二世紀末)

経塚とは、仏教の経典を土中に埋納し人々の平安を祈るもので、平安時代中ごろから江戸時代まで行われていました。

平安時代は、気候が寒冷で、災害や疫病が続いたため、人々は釈迦の教えという末法の世の中になったと考えるようになりまし。そこで、世の人々を救うため弥勒菩薩が現われるまでの間、タイムカプセルのように経典を保存しようと考えました。

榎内経塚は、旧松倉経塚とよばれ昭和初期から知られていました。経塚からは、鏡・銅製の経筒、白磁の甕、香炉などが出土したとされていますが、散逸してしまっています。

昭和六一年に、残っていた遺構を確認するために発掘調査が行われ、三基の経塚の存在が確認されました。地下には石組みの石室があり、ここに経典が埋納されていたようです。周辺からは、同時に埋納されたと思われる刀、須恵器、陶器の破片などが見つかっています。

榎内経塚は、浜通りで発見された経塚の中でも、古い時代のもので、

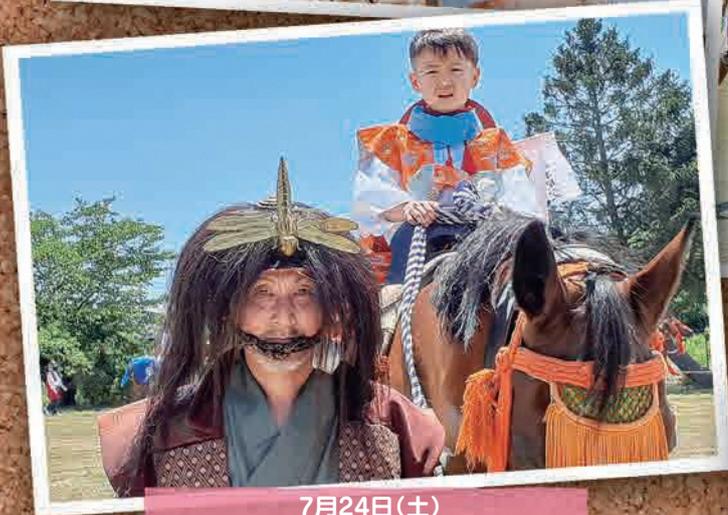


▲経塚の出土品



▲復元された経塚群

ふたばのわ スマイルフォト



7月24日(土)
令和3年度標葉郷野馬追祭(浪江町内)



8月8日(日)
中野八幡神社竣工祭
(双葉町内)



コーラスふたば 50周年記念コンサート 中止のお知らせ

令和3年10月3日(日)に開催を予定しておりましたコーラスふたば50周年記念コンサートにつきまして、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況から、参加者及び関係者の健康・安全面を第一に考慮し、中止することといたしました。楽しみにしていただいた皆さまには申し訳ございませんが、ご理解をお願いいたします。

問い合わせ先 ◆コーラスふたば50周年担当 ☎080-2351-6695 ◆教育総務課 ☎0246-84-5210

今月の情報掲示板はお休みします

中野地区復興産業拠点

立地企業の紹介

双葉町が来年度の帰還に向けて先行整備を進めている「働く拠点」の中野地区復興産業拠点は、8月現在で19件24社と立地協定を締結し、地元企業を始め様々な業種の企業が立地します。半数以上が操業を開始し、町の復興をけん引している立地企業の事業内容や町への思いなどを今月号からシリーズでご紹介します。



今月の紹介企業① 双葉中央アスコン

双葉中央アスコンは、双葉住コン株式会社と大林道路株式会社の共同企業体で、アスファルト合材製造設備やアスファルト・コンクリート製の破砕処理施設を中野地区に設置しています。同拠点と周辺地域のインフラ整備に尽力し、復興事業に貢献しています。近年の発災時には、東日本大震災の経験を踏まえ、地震により破損した常磐自動車道に舗装材料を供給し早期復旧に貢献するなど、公共施設の復旧事業にも尽力しています。



双葉中央アスコン 副所長 関 孝之さんの声

私は現在単身赴任しており、家族に町内を案内した際、報道されていないものの立入規制箇所の多さに驚いていました。復興は着実に進んでいますが、これからが本番だと感じます。中野地区に立地し、日々復興に向け尽力される方々の姿に感化され、また家族からの「がんばってね」という言葉に背中を押され、「なんとかしなくては」という思いで仕事に取り組んでいます。避難されている町民の皆さんは、今どこでどうしていらっしゃるのか、多くのご苦労に心を寄せると、復興への思いはさらに強くなります。町の復興に寄り添い、尽力したいと思います。町に人や生活が戻ることが復興なのだとは私は考えています。特別でも都会的でもなくていい。駅前にもんじゃ焼き屋があるような、昔の田舎町ができればいいのではないのでしょうか。海や山など一定エリアの立入規制解除まで少し時間がかかるかもしれませんが、将来は豊かな自然も楽しめる町になるといいですね。熱意のある関係者との協働が実を結び、短期間でOVER ALLSによる壁面アートも完成しました。私にとって、復興とは熱意だと思います。



【問い合わせ先】 復興推進課 ☎0246-84-5203

放射線モニタリング情報

福島県内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

令和3年8月20日

- ①郡山市 日和田応急仮設住宅 …… 0.12~0.24
- ②福島市 県北保健福祉事務所 …… 0.12
- ③郡山市 県郡山合同庁舎 …… 0.07
- ④白河市 県白河合同庁舎 …… 0.06
- ⑤会津若松市 県会津若松合同庁舎 0.05
- ⑥南会津町 県南会津合同庁舎 …… 0.04
- ⑦南相馬市 県南相馬合同庁舎 …… 0.06
- ⑧いわき市 県いわき合同庁舎 …… 0.06



双葉町内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

原子力規制委員会ホームページより

地区	地点	平成24年 4月1日	令和3年 8月20日
新山	新山公衆トイレ脇公営駐車場	—	0.40
新山	新山公民館	—	0.14
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.17
新山	双葉南小学校	—	0.17
新山	双葉中学校	—	0.17
新山	県立双葉高等学校	—	0.20
新山	中央公園	—	0.19
下条	双葉総合公園	2.60	0.56
下条	双葉町役場	—	0.19
郡山	郡山公民館	1.48	0.31
細谷	細谷公民館	—	0.31
三字	三字公民館	2.53	0.15
山田	山田農村広場	24.47	3.05
石熊	石熊公民館	12.10	1.42
長塚	双葉町体育館	6.25	0.45
長塚	長塚二公民館	3.26	0.21

地区	地点	平成24年 4月1日	令和3年 8月20日
長塚	双葉町青年婦人会館	—	1.23
長塚	町西住宅	—	0.17
長塚	JA ふたば北部営農センター	—	1.07
長塚	双葉北小学校	—	0.34
長塚	ふたば幼稚園	—	1.02
長塚	双葉駅北側駐車場	—	0.30
長塚	双葉町児童館	—	0.20
羽鳥	上羽鳥	1.89	0.29
羽鳥	羽鳥公民館	1.73	0.35
寺松	寺松公民館	3.46	0.85
渋川	渋川公民館	1.48	0.33
両竹	両竹公民館	0.54	0.07
浜野	双葉町産業交流センター	—	0.04

全国及び福島県の空間線量測定結果については
原子力規制委員会ホームページでご覧になれます。
<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

ふたさぽミニコラム



ちょうど1年前のコラムで、きのこに夢中な息子のお話しをしました。その後、小学校6年生になった息子のきのこ愛はまだまだ健在なようで、今年も例のごとくきのこ調査(狩りではない)のオンシーズンに突入しました。7月にあった同好会の調査にわたしも同行したのですが、思いの外「山」でとてもハードでした。息を切らして登る母を置いてさっさと先に行く息子。立派なきのこ博士になってほしいと思います。 宮本 真澄

今月のオフショット

暑い中お疲れ様でした



8月28日

休憩中の中田地区農地安全管理組合の皆さんです
試験栽培の様子は来月号で特集予定です!